

新任教員紹介

航空宇宙学科 航空操縦学専攻・教授 大西孝一

略歴

- 1946.12 徳島県生まれ
- 1969.3 海上保安大学 本科卒業
- 1969.9 海上保安大学 専攻科修了
- 1969.10 操縦訓練
- 1971.8 海上保安業務（千歳、羽田、那覇、福岡）
- 1987.6 航空局（航空従事者試験官、飛行検査官、運航審査官、航空大学校）
- 2006.4 現職

担当科目

操縦実習、航空概論

研究活動内容

【飛行経歴等】

1970年に飛行を始めて以来、航空局での仕事を終えるまで操縦・運航に関わる仕事を続けてきました。

海上保安庁での約20年間にわたる勤務の中では、海上警備、捜索救難、火山活動の調査、地磁気探査等の業務に携わり、冷戦当時のソビエト連邦の領海付近を飛行した時にはミグ23に至近距離まで接近されたこともありました。

その後、航空局の航空従事者試験官として中断はありましたが3カ所（乗員課、東京局、大阪局）、合計12年間勤務いたしました。試験官業務としましては、学科試験の問題作成及び実施、小型飛行機、大型飛行機、ヘリコプターあるいはモーターグライダーの実地試験、航空従事者指定養成施設の技能審査員の認定試験等を実施するとともに技量拡張訓練にも参加し、航空会社においてボーイング767型機、747型機、747-400型機及びエアバスA320型機の型式限定変更を取得する機会を得ることができました。

飛行検査官業務としましては、航空機が飛行する際に必要不可欠な航法援助施設（ILS, VOR/DME, RADAR, NDB等）の開局、定期、臨時検査等を実施していました。この間、北海道から沖縄まで殆どの空港において離着陸の経験ができ、以後の審査業務に役立てることができました。航空局に入り自ら航空機の操縦を行う運航経験はこの期間のみとなりましたが、新機種導入にかかる研修・領収検査等を行う機会を得、これに引き続き後輩の育成にあてられたことはパイロット人生の中で最も充実した時期となりました。

運航審査官は、航空機の航行の安全の確保にかかる審査業務を実施しております。その業務の一つとして航空会社に所属する操縦士の機長認定審査を実施していましたが、このように技術的な面から航空の安全を担保してゆくのが運航審査官の主たる業務です。航空会社に所属する機長は、一度機長認定されてもその資格を維持してゆくためには、6ヶ月ごとの技能審査



及び1年ごとの路線審査を受け、これに合格しなければ運航業務を継続できなくなっております。大手航空会社におきましては、機長の認定業務を除く定期審査等を航空会社に所属する査察操縦士に委嘱できる制度があるため、この業務を行う査察操縦士にかかる指名審査、指名定期審査等の業務も担当しております。

航空大学校におきましては、主として管理業務を実施しておりますが、その内容は多岐にわたっており操縦訓練全般はもとより、職員の採用、学生の募集、入学試験、学生の就職等について担当しております。

【研究活動等】

これらの航空業務の経歴を基に、東海大学における航空従事者指定養成施設の立ち上げ及びその維持を行うとともに、建学の精神に基づいた豊かな人格と確かな操縦技術を持ったパイロットを育成してゆきたいと考えております。

研究活動としましては、現在入学試験で実施している操縦適性検査手法について、より安価で、かつ正確な検査法を研究課題として取り組んでゆきたいと考えております。パイロット養成にかかる経費は高額であり、途中で訓練が中断された場合、本人にとっても、またその周囲にいる関係者にとっても不幸なことであるため、より正確に適性が判定できる手法を研究してゆきたいと考えております。

